

第3回次期あいちビジョン有識者懇談会産業経済分科会議事録

日時 2020年8月17日(月)

午後1時30分から午後3時30分まで

場所 愛知県自治センター 603会議室

あいさつ

<野村政策企画局長>

愛知県政策企画局長の野村でございます。

本日、座長の内田先生を始め委員の皆様方には、大変お忙しい中、「第3回 次期あいちビジョン有識者懇談会 産業経済分科会」にご出席賜りまして、心より御礼申し上げます。

また、日頃より、愛知県政の推進に格別のご支援、ご協力をいただいておりますことを、この場をお借りして、御礼申し上げます。

本日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環として、Web会議形式で行うことといたしました。不慣れな点もございますが、どうぞご容赦いただければ幸いです。

さて、当分科会につきましては、昨年度に2回、9月と12月に開催し、委員の皆様には、それぞれのご専門の立場から、大変貴重なご意見を頂戴しました。

一方で、昨年12月から今に至るまで非常に大きな出来事としまして、新型コロナウイルスの感染症の拡大ということがございます。

第1波、第2波とございまして、今まさにその第2波の中にあると我々は認識をしております。特に現行でいきますと、7月の後半から8月の初めまで、14日間連続で感染者数が100人を超えた大変厳しい状況が続いているということもございます。8月6日には、今月の24日までを期間といたしまして、県独自の緊急事態宣言を発出いたしました。不要不急の行動自粛などを県民の皆様へ、知事からお願いしているという状況でございます。今、お盆休み期間中に入りまして、先週から100人を切るような状態になっておりますけれども、引き続き厳しい状況には変わりはないと、我々としては認識をしているところでございます。

こうした新型コロナウイルスなどについて、大きなトピックもございましたので、これまで我々といたしましては、有識者の方々にどのようにこの新型コロナウイルスなどを、次期あいちビジョンに位置付けていくか、ヒアリング等をして考えて参りました。今回お示ししている次期あいちビジョンの骨子案の中では、めざすべき愛知の姿の1番目に、「危機に強い愛知」を掲げることとし、重要政策の柱立てにつきましても、一部見直しを行いました。また、2022年以降のジブリパークの順次開業や、2026年のアジア競技大会の開催など、大規模事業・プロジェクトの最大限の活用や目標年度を同じくするSDGsの達成への貢献など、地域づくりを推進するに当たっての横断的な視点も新たに加えて、7月27日に次期あいちビジョンの骨子案を、これまで先生の皆様方からのいただいた意見の上に再構成をして作り直し、組み立てて公表しました。

後ほど、事務局から詳細をご説明させていただきますが、本日、皆様には、この骨子案を基に

整理した「次期あいちビジョン素案たたき台」と、重要政策の方向性の進捗を測るためのKPI（重要業績評価指標）について、幅広い見地から、忌憚のないご意見を頂戴いただければ幸いです。

分科会といたしましては、本日が最終回と予定しております。どうぞよろしく願いいたします。

事務局説明

<事務局>

それでは、事務局から、資料に沿ってご説明いたします。

まず、「次期あいちビジョンの骨子案」でございます。資料1-1の「骨子案の概要」をご覧ください。これまでの有識者懇談会及び分科会の意見を始め、新型コロナウイルス感染症の影響について行った有識者懇談会委員の方々へのヒアリングや、国の地方機関、市町村の意見等を踏まえて整理し、7月27日に公表させていただいたものでございます。詳細な説明は省略させていただきますが、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、「Ⅱ」の2040年頃の「めざすべき愛知の姿」の一番目に「①危機に強い愛知」を新たに位置付けております。右側でございますが、「Ⅳ」の2030年度までに取り組むべき「重要政策の方向性」につきましても、一番目に「①危機に強い安全・安心な地域づくり」を位置付けるなど構成を見直しております。本日は、このうち、主に⑤番、⑥番、⑦番の3つの項目について、ご議論いただきたく存じます。

次に、資料2「次期あいちビジョン素案たたき台」をご覧ください。これは、骨子案に記載の「重要政策の方向性」に盛り込んでいく要素について整理したものでございます。本日の分科会でいただいたご意見も踏まえ、成文化し「次期あいちビジョンの素案」としていきたいと考えております。

10ページの「豊かな時間を生み出す働き方が可能な社会づくり」です。左側の着色された部分は、2040年頃を展望した背景、2030年度までに目指すべき姿、それらに向けて取り組むべき課題を示しております。少子高齢化による労働力不足の深刻化、また、共働きの増加、定年延長などにより、地域コミュニティの担い手不足がさらに顕在化していくと見込まれます。そうした中で、人生を豊かに過ごしつつ、職場・家庭・地域などで複数の役割を担える社会を実現していくため、ICTなどを活用した多様な働き方の促進、ワーク・ライフ・バランスの普及拡大などが必要であります。ここでは、そのための主要な政策の方向性を示しております。

左下及び右側をご覧ください。主要な政策の方向性として、骨子案に示した内容を「◆」のマークや、括弧書きで記載し、それらの実現に向けて取り組んでいく方向性の要素を「・」箇条書きにしております。

1番目の「◆」は、「新技術を活用した効率的な働き方の促進」に関する内容です。田中委員の「テレワークの普及に向けて、成功事例を発信することが必要」とのご意見を踏まえ「(テレワークの普及促進)の項目で「県内企業の先進事例の収集・提供」を盛り込んでおります。2番目の「◆」は「多様で柔軟な働き方の促進」に関する内容です。(働き方を柔軟に選択できる環境づくり)では、鬼頭委員の「起業する人材を集めるためにはセフティーネットが必要」とのご意見を踏まえ「兼業・副業」について、盛り込んでおります。3番目の「◆」は子育て、介護と

仕事との両立など「ワーク・ライフ・バランスの更なる普及拡大」に関する内容です。

11 ページをご覧ください。「イノベーションを巻き起こす力強い産業づくり」です。今後、第4次産業革命の進展に伴って、産業構造の大きな変化が見込まれています。そうした中で、農業も製造業も、あらゆる産業において、新技術をいち早く取り込み、イノベーションを創出し、日本の成長をリードしていくことが求められており、そのための主要な政策の方向性を示しております。

右側をご覧ください。まず1番目の「◆」は「ステーションA i を中核とした国際的なイノベーション創出拠点の形成」に関する内容です。「投資家と起業家とのつながりが必要」との風神委員のご発言や「イノベーターがモノづくり企業にアイデア出しができる場が必要」といった岩附オブザーバーのご意見を踏まえ、「ステーションA i」などを活用した戦略的なスタートアップの創出・育成)の3つ目の「・」で、「各種育成プログラム」を盛り込んでおります。2番目の「◆」は「次世代産業の振興」に関する内容です。(自動車産業の進化促進)の2つ目の「・」では、澤谷委員の、「愛知県がM a a Sの先進地域に」といったご発言や田中オブザーバーの「次世代の最先端モビリティシティーとして打ち出してはどうか」とのご発言を踏まえ、「自動運転を活用した新たな移動サービスの実現」を記載しております。

12 ページをご覧ください。左側の上(戦略的な産業集積)の2つ目の「・」で内田座長の「コロナ禍を受け、今後は有事も想定したサプライチェーンの見直しが行われる」といったご意見を踏まえ「サプライチェーンの再構築を見据えた戦略的な企業誘致」を盛り込んでおります。

3番目の「◆」は企業力の強化や円滑な事業承継など「中小・小規模企業の持続的発展と生産性の向上」に関する内容です。

右側をご覧ください。1番上の「◆」は「産業人材の育成・確保」に関する内容です。最初の(デジタル人材をはじめイノベーションを生み出す人材の育成・確保)の1つ目の「・」では、田中委員の「デジタル人材の育成と供給が重要」とのご意見を踏まえ「産学行政が連携したデジタル人材の育成・確保」を盛り込んでおり、3つ目の「・」では澤谷委員のご意見を踏まえ、「あいちグローバルハイスクールなどの取組によるグローバル人材の育成・確保」を盛り込んでおります。

右側下の「◆」は「スマート農林水産業等による生産力の強化」に関する内容です。一番目の(新技術・新品種の開発と普及)では、内田座長の「スマート化に向けた製造業と農業との連携」といったご意見を踏まえ、1つ目の「・」で、「ロボット技術やICT等の先端技術を活用したスマート農林水産業技術の開発」を盛り込んでいます。また、次のページ中ほどの「◆」は「県産農林水産物の需要拡大」に関する内容です。右側の(食の安全・安心の確保)の1つ目の「・」には高山委員の「世界的な競争力を高めるためにはGAPを満たすことが必要」とのご意見を踏まえ「農産物の生産現場での管理工程(GAP)に取り組む生産者支援」を盛り込んでおります。

14 ページをご覧ください。「世界とつながるグローバルネットワークづくり」です。人口減少により国内市場が縮小していく中で、世界経済は多極化しながらアジアへシフトし、巨大な市場が形成されていきます。そのような中で、本県の産業が今後も力強く発展し、日本の成長をリードしていくためには、アジアを始め世界から、企業や人材、資本、情報を呼び込み、新たな投資や取引機会の拡大に取り組んでいく必要があります。そのために必要となる主要な政策の方向

性を示しております。

右側をご覧ください。1番目の「◆」は「Aichi Sky Expoなどを活用したMICEの誘致・開催と国際観光都市の実現」に関する内容です。2番目の「◆」は「アジア競技大会を活用した戦略的なネットワークづくり」、3番目の「◆」は「グローバル市場の更なる獲得と海外からの投資促進」、4番目の「◆」は「海外からの人材獲得」に関する内容です。(留学生の受入れ拡大・活躍の促進)の1つ目の「・」には田中委員の「アジアの理工系の人材を積極的に呼び込むべき」とのご意見を踏まえ「(アジア諸国からの技術系人材を念頭においた)留学生の積極的な受入れの促進」を盛り込んでおります。また、一番下の(外国人材の受入れの促進)については、岩附オブザーバーのご意見を踏まえ、次のページの「インターナショナルスクールの充実の検討」を盛り込んでおります。5番目の「◆」は「海外とのパートナーシップの構築」に関する内容です。

資料2の説明は、以上でございます。主要な政策の方向性として、不足する要素はないか、さらに充実すべき点はないかなど、ご意見いただきたいと存じます。

続いて、資料3をご覧ください。こちらは、今ご説明しました重要政策の進捗を測るための指標について、経年的に確認していくことが可能な数値を、各項目3つから5つ整理したものです。全ての指標において、数値目標を設定することは難しいと考えておりますが、重要な指標については設定を検討していきたいと考えています。また、指標につきましては、現行ビジョンとの連続性を保つということを意識しながら整理したものであります。なお、世界と比較できる指標につきましても検討してみましたが、なかなか県単位のデータとして比較可能なものが見つからない状況ですので、本日、良い指標がございましたらご紹介いただけましたら幸いです。

2ページをご覧ください。柱⑤「豊かな時間を生み出す働き方が可能な社会づくり」ではワーク・ライフ・バランスの進捗を計る指標として「あいちワーク・ライフ・バランス推進運動賛同事業所数」などを挙げております。柱⑥「イノベーションを巻き起こす力強い産業づくり」では、スタートアップの育成・創出の進捗を計る「スタートアップの本格的市場参入数」などを挙げております。柱⑦「世界とつながるグローバルネットワークづくり」では、MICE等の誘致力を示す指標として「国際会議の開催件数」などを挙げております。

これら指標に関し、専門的な見地からそれぞれの項目の進捗管理指標として妥当か、他に適した統計指標がないかなど、ご意見をいただきたいと考えております。

事務局からの説明は以上となります。

議題 次期あいちビジョン素案たたき台について

<内田座長>

それでは皆様から順次ご意見を伺って参りたいと思いますが、本日の進行につきましては、議題が2つありますので、2巡で考えております。

1巡目に関しては、今のご説明いただいた資料のうち、特に資料2「次期あいちビジョン素案たたき台」、この中で産業経済分野に関係の深い柱の⑤⑥⑦を中心に、2030年度までの取組の方向性という観点で追加すべき視点であったり、拡充すべき視点、そういった内容について様々なご意見やご提案を頂戴したいと思います。

それから2巡目につきましては資料3、「次期あいちビジョンに係る進捗管理指標案」に関す

るご意見を頂戴するとともに、1巡目の委員の皆様のご発言を受けて新たなご意見、ご発言等がございましたら、それについてもご提案などをいただければと思います。

それでは全体のご発言時間ですけれども1巡目につきましては、お1人当たり6分程度、2巡目につきましてはお1人当たり5分程度で、ご発言をいただきたいと思います。

毎回最初で恐縮ですけれども、1巡目は田中委員から順にご発言をいただきたいと思います。よろしくをお願いします。

<田中委員>

名城大学の田中です。よろしくお願いいたします。

まず、先ほどご説明いただきました資料の10ページの重要政策の方向性について、新型コロナウイルスの要件をどこまでこれに入れ込むのか、という問題があります。例えば10ページのテレワークの普及促進や、5番の柱は豊かな時間、働き方に関わる問題になっているのですけれども、コロナ禍においてこうした対策や取組が、県内企業にとって現在の競争力の維持、あるいは事業継続のための喫緊の課題になっていると思います。とりわけ愛知県の場合、規模の大小にかかわらず、モノづくりの製造現場など、そもそもテレワークが困難な企業が多く、こういったコロナ禍で、どのようにモノづくりを持続していくか、苦勞されている企業さんが多いと思います。

おそらくこのBCPの問題は柱①のところで、県土基盤分科会の方で議論されることと思いますが、そちらの分科会で議論される場合でも、例えばテレワークの普及促進について、県内の先進事例の収集と発信において、ぜひ、モノづくり企業における、コロナ禍での働き方という視点も、しっかり織り込んでいただきたいと思います。これは意見というより要望でありますし、2040年の時点でコロナがどうなっているか分からない部分もありますが、おそらく多くの県民の皆さん、県内の企業の皆さんの関心が強いところだと思いますので、まず始めにそちらをお願いしたいと思います。

次に、これもコロナに関連する問題であり、柱の⑥⑦に関わってくるのですけれども、確か1年開設が先送りになったステーションA iや、EXPO等について、数年後には通常の生活が戻って、これまでどおりの経済活動ができるという前提で政策を考えるのと同時に、新しい生活様式が定着した場合、例えばステーションA iなども、場は提供する、起業は愛知県内でやっていただくにしても、情報は世界中から収集して、愛知県の持っているシーズやニーズと結びつけるような、新しい運営方法を考えることも重要と思っています。

あわせて、現在、世界的にEXPOなども、Web開催やバーチャル開催が増えているわけですから、そういった先行事例や知見も生かして、柱⑦のところになりますけれども、今後のEXPOなどを待たずに、県内の優れた企業さんや技術を積極的に発信していく仕組みを構築し、コロナというピンチをチャンスに生かすように、前倒して実現できるものはどんどん戦略として前倒していければと思っています。

それから柱⑥のところになりますけれども、次世代産業に関して、いろいろ例が挙げられているわけですが、この中でちょっと気になったところと言いますと、ロボット産業の振興という記述がありますけれども、これもコロナ禍で省人化、無人化がさらに進むと予想されており、ロボット

を使ってどういう新しいビジネスを生み出すか、という視点が重要と思います。例えば、自動車産業の進化促進の記述では、自動車を単なるモノではなく、モビリティサービスとしてとらえましょうというように書かれていますので、ロボット産業の振興についても、新たな技術や製品だけではなくて、ロボットを生かした新しいサービスを愛知から生み出していく、それを県内の優れた企業さんと一緒に作り出していく、そういったサービスの視点が重要であると考えております。

それから、先ほど説明があり、私の意見を反映していただいておりますけれども、やはりコロナ禍の中でも、時間のかかる人材育成は待たないといけない問題です。その中で前回申しました「デジタル人材」について、例えば、12ページですけれども、「愛知総合工科高校の理工科設置」に関して、将来的に考えると、単なる工学だけではなく、例えば情報工学とか、あるいは英語といったスキルがこの領域の共通言語になってくるとと思いますので、学科やコースまでなくても結構ですけれども、情報工学も組み込んだ教育体系にしていきたいと思っております。

最後に、柱⑦に関しまして、いつになったら国境を越える人の移動が自由にできるか分からない状況ですので、現在、愛知県が結んでおられる様々な海外の国や地域とのネットワーク、この関係をリモートでどのように維持していくか、実際に人の移動ができるようになった時に、すぐに実行して動かせる仕組みづくりが、現在、求められていると思っておりますので、このあたりも引き続きお願いしたいと思っております。

それでは大体6分ぐらいになりましたので、ひとまず1巡目の発言は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

<内田座長>

ありがとうございました。

今の田中委員のご発言の中で、コロナの影響をどういうふうに見るかということで、ご指摘いただいた視点の一つは、スマート社会化の加速スピードがかなり早まるということだと思っております。例えば、10ページ目のテレワークの箇所ですが、モノづくり、製造業に関して、従来、テレワークはなじまないとされてきましたが、2つ目の括弧のところに省力化や無人化の促進という表記もありますので、製造業の生産ラインもそうした省力化、無人化が進む流れの中で、少し関連づけて書き込めないかなと思っております。

また、田中委員の発言で気づいたのですが、兼業・副業、テレワークのところに地域限定的な働き方の気運醸成というところがあるんですけども、これも今回のコロナでむしろ地域、場所や時間にとらわれない働き方という流れになってきていますので、ワーケーションも含め、地域限定という働き方の表現が望ましいのか検討いただきたいと思います。さらに、すでに導入されている同一労働同一賃金もありますし、地域限定という表現の言い換えも検討願います。

さらに、ロボット産業に関連したご発言もありましたが、新型コロナでロボット産業のポテンシャルが高まっている印象ですが、逆にスペースジェットの納期が遅れている航空機産業との順番を今のままでいいのか。場合によっては、将来有望なロボット産業との順番の入れ替えも検討すべきなのかなと思っております。

人材については、具体的に情報工学ぐらいのことを書いてもいいのではないかとのご意見も頂戴しました。ビッグデータ処理などのデータサイエンティストをイメージするような理工系人材の重要性も増していますし、次世代製造業の開発に貢献するような理工系もありますが、むしろ当地が弱い情報工学系という視点を追加してもいいのではないかと思います。ありがとうございました。続きまして、澤谷先生お願いします。

<澤谷委員>

まず最初に、非常に総花的で、愛知ではなくても他の県の名前を入れても、大体こういった戦略になると思います。戦略としてももう少し構造化していくことが重要なのではないかと思います。

その中で、ここの中に自動車産業という言葉が出ていたり、モビリティという言葉も出てきます。先ほどもご意見ございましたが、モノから価値へ、サービスへという大きな流れの中で、そういった用語が混ざっていると、非常に意味が伝わりにくくなります。自動車産業を重視するのか、移動産業なのか、モビリティなのか言葉を見直していくと、統一感のあるメッセージが出てくると思います。

今回コロナのことがあって、デジタルトランスフォーメーション（DX）が一気に進んでいるということなのですが、それは大企業と中小企業では非常に異なります。また、スタートアップというのは始めから新しいことをしますもので、DXとかITありきでやるところが多いので、心配はないのですが、90%以上ある中小企業の支援がうまくこの戦略の中に、組み込まれていることが重要だと思います。人材でもそうでしょうし、そういった知識をつける場も必要でしょうし、あるいはプロの人達と出会うような場など、中小企業が、DXをして、新しい形に、働き方に転換し、新しい価値を提供できるような支援がスタートアップと同等に重要なと思います。

<内田座長>

ありがとうございました。

最初の愛知ならではの方向性をもう少し強調していただきたいということですが、愛知県のSWOT分析を前提とした方向性を作成していただいていますので、もう少し表現の部分で、愛知県独自の方向性が見えるように検討していただければと思います。

それから2点目のモノづくりからサービス業への移行が少し見えにくいというご指摘ですが、これも表現の問題が大きいかと思いますので、その辺りはキーワードも含めて少し精査していただければと思います。

スタートアップ以外の中小企業がDXに対応するという流れの中でいきますと、10 ページ目に「中小企業とのテレワーク導入に係る労務上の課題などへの相談対応」と、現状でも既に対応していただいている内容が入っているのですが、大手メーカー、大企業中心の当地域でも中小・零細の下請け企業などのDX対応は死活問題ですし、ここを何とかしていかないと、スタートアップの発展も見込めないだろうと思いますので、そうした視点も追加できるように

ばお願いします。続きまして、鬼頭委員お願いいたします。

<鬼頭委員>

鬼頭です。

私からは柱⑥であります「イノベーションを巻き起こす力強い産業づくり」、特にスタートアップ支援に関しまして、大きく2つ、コメントをさせていただきたいと思います。

1点目は11ページにあります、「ステーションA i を中核とした国際的なイノベーション創出拠点の形成」についてですが、これまでの分科会での議論を反映されているとは思いますが、多くはないですがいくつか追加、充実するとよいと思われる点を説明させていただきます。ここにも記載がありますが、先般、内閣府から、愛知、名古屋が浜松市と一緒にスタートアップ・エコシステム拠点都市、8つの拠点都市の一つとして認定されましたが、これは当地区のポテンシャルの高さが評価された結果だと思いますが、実際にはまだまだ課題は多いと思っております。以前の分科会でもコメントさせていただきましたが、起業家の育成、呼び込みということにより一層力を入れていく必要があると思っております。特に大学の研究シーズをもとにしたスタートアップについては、まだまだ大きな課題があると思っております。

一方で、昨今のコロナの状況もありまして、これまでもお話のあったテレワーク環境が急激に各地域に浸透しつつありますので、スタートアップの企業が東京以外の地域でも、不利にならないような環境が整いつつあると思っております。そうなりますと、各地域の住みやすさなどが起業する場所の選定の大きな要素になってくる可能性があると思っておりますので、19ページの柱⑨の記載内容に関係すると思いますが、愛知県の魅力を東京などのスタートアップ企業にアピールしていくという視点が必要ではないかと思っております。

また、海外スタートアップ企業、大学との連携を通じた支援という記載がありますが、今回グローバル拠点都市として選定されたコンソーシアムを中心として、支援をしていくという視点もあるといいのではないかと思います。コンソーシアムには大学のほか、名古屋市や中部経済連合会などの経済団体も含まれておりますので、このコンソーシアムで何をこれから具体的に連携して行っていくかが重要だと思えます。

前回の分科会では、世界のスタートアップ・エコシステムのランキングを紹介させていただいて、東京が30位にも入っていないということでしたが、本年度2020年度版では、東京がようやく15位に入りました。日本の都市で東京以外にこのレポートに名前が挙がっているのは大阪だけありまして、当地区はグローバルという点でもまだまだ遅れをとっているのが現状であります。今回、グローバル拠点都市の認定を受けたのを機に、当地区の行政、企業、大学が総力を挙げていく必要があります。ここにあげた各種育成プログラムや利用支援金の支給についても、スタートアップの成長に応じたプログラムを、各々の立場に応じて、連携して提供していく必要があると思えます。特に愛知県は優れたモノづくり企業が多いので、こういった特徴を出していければよいのではないかと思います。

また、あいちスタートアップワンストップセンターについては、これまでの分科会でもお願いをしておりまして、今回記載いただいておりますが、このグローバル拠点都市の活動の一環として、県だけでなく市を含めた行政のワンストップセンターを目指していただければと思います。

2点目ですが、12 ページのスマート農業に関する件ですが、簡単にコメントさせていただきます。スマート農業については、これもまたスタートアップの技術と大きな関連もあり、連携が重要な領域であると思っております。私もスタートアップのベンチャーのコンテストの審査員を行っていますが、結構この分野では、面白い技術が出てきております。この分野では大学の技術を大いに活用していただく点も入れていただければと思っております。以上です。

<内田座長>

ありがとうございました。

鬼頭委員会からは11 ページ目の「イノベーションを巻き起こす力強い産業づくり」を中心に、様々な視点でご意見を頂戴しましたが、特にスタートアップに関して起業家精神のある若者の誘引のためには住みやすさも重要だというご指摘をいただきました。具体的に、柱⑨の「選ばれる魅力的な地域づくり」の方に記述がありますけれども、むしろこちらの産業経済分野でも、そうした住みやすさは重要な視点となりますので、場合によっては追加してもよいのかと思います。

それから、スマート農業に関してのイノベーションという部分では、愛知県の農業産出額が全国7位の農業県でもありますので、そういう意味で、スマート農業のあたりでもイノベーションの視点を盛り込んでいただければと思います。ありがとうございました。それでは続きまして、風神委員お願いいたします。

<風神委員>

風神です。

資料に沿って何点かコメントしたいと思います。

資料を拝見したときに、感じた最初の感想としては、非常に具体的な項目と、やや抽象的な項目が混在しているかなと感じました。例えば資料10 ページ目の柱⑤からいきたいと思いますが、右側の「中小企業へのテレワークの支援策の周知」なんかはまだ知られてないところがあるので非常に良いなと思いますが、右側の黒ポチの「多様で柔軟な働き方の促進」のところだと、「兼業・副業やテレワークなどの働き方を柔軟に選択できる環境づくり」。これを具体的にどうするのか、他の相談窓口の設置の策と比べると、これは企業側へ働きかけるのか、個人が行う際にどういったことは気をつけなければならないのか、リテラシーの向上として、何か講座を提供するのかなど、もう少し具体的に書くことができるのかなと感じました。

またその下の、「職住近接のまちづくりの推進」というものに対しましても、何か都市計画の方ですでに具体的な計画があるならばそういったことを盛り込んでもいいのかなと感じました。

次に⑥について、ページめくりまして資料11 ページ目ですけれども、右側の「海外のスタートアップ支援機関、大学との連携促進」というところにつきましても、具体的にどこかの国の拠点と連携するのか、あるいは県で始めようとしたときに、県の方から紹介してもらえるのか、何かもう少し具体的に書き込んでもいいのかなと感じました。

また11 ページ目の最後のところですが、「ロボット産業を支える人材の創出の推進」と

ということに対しましても、他のところだと高度教育についてとかいろいろコメントありましたけれども、どうやってそのロボット産業を支える人材を創出していくのか、教育機関へ金銭的な支援をするのか、あるいはもう少し長い目を見て企業が子供向けのセミナーみたいなものを行うのかというようなこと、あるいはデジタル人材支援と同じことなのか、もう少し具体的に書いてもいいのかなと思いました。

最後に⑦について、ページめくりまして14ページです。左側のグレーがけのところの白い丸印の下から2番目のところに、さらに海外市場の更なる獲得や、などいろいろ書かれていて県内に、かなり高度な技術や専門的知識を持っている人を呼び込もうということなんですけれども、その具体策というのが、留学生の呼び込みと、県内企業への就職促進が該当しているのかもしれませんが、もう少し具体的に、かつ、なぜ愛知を選ぶのか、他ではなく愛知に呼び込むことができるのかといったことを入れてもいいのかなと思いました。1巡目は以上です。

<内田座長>

ありがとうございました。

方向性の柱⑤⑥⑦の順を追ってご指摘いただきましたが、全体的には、具体的な施策がイメージできるような方向性と、かなりまだ抽象的な部分が混在しているというご指摘をいただきました。そのあたりで、すでに動き始めているような具体的な施策があれば、そうした事例を提示していただきたいと思えますし、ステーションA i ではすでに国内の大学との連携だけでなく、ネットワークに入る欧米の大学なども決まってきていますので、そういった事例も入れ込んでいただければ良いのかなと思います。

ありがとうございました。それでは続きまして、高山委員お願いします。

<高山委員>

高山です。

それでは私は方向性の柱⑥を中心にお話をさせていただきたいと思えます。大体、先生方いろいろコメントいただいておりますので、特段変わったことはないのですが、先ほどもご指摘ありましたように、例えばステーションA i については、テーマ、分野に特化した支援拠点の設置というふうに書かれています。ということは、これはステーションA i を設置する地域性にそれぞれコンセプトを設けて、すでに展開しようとしている場合でしたら、例えば地域ごとの目標設定があったと思えます。尾張と東三河、西三河みたいな形だったと思うのですが、それと対応したような形で、地域別の拠点ならではの分野みたいなものを具体的に書いていただけるといいのかなと思いました。

さらに、スタートアップに関してなんですけど、もちろん様々な年代の方々がスタートアップにチャレンジされるというのが、一般的な考え方ではあるのかもしれないんですけども、多分なんとなくですけども、若い世代をエンカレッジするような形で、スタートアップを目指していくような人を作っていくんじゃないかと。もちろんシニア世代をリカレント教育でもう1回教育し直して、新しい知識を得て、これまでの知識と合わせて、起業とかそういうこともあるのだと思うんですけどもやはり、起業マインドを持った若手の方々がエンカレッジするというこ

ろで、若い方々、例えば若手研究者をエンカレッジして、スタートアップの方向性を見ていただくといったようなことを明確に書いていただけると、もしかすると全国から若い研究者の方々が、集って来ていただけたらとかチャンスを見出しに来ていただけたらといったような拠点になるのも一ついいのかなと思いました。若手研究者のエンカレッジという視点でのスタートアップ支援ということでございます。

次に、これはもしかすると、方向性の柱⑤とも関係するのかもしれないですけども、次世代産業の振興のところで自動車産業と書いてあるんですけども、自動運転の社会実装に関しては、最近、やはりそのコロナ等々で、在宅で勤務するとかあまり買い物に出かけないようにしようということで、宅配がすごく重要だなと。人間は動かなくてもテレワークみたいな形でコミュニケーションができたりとか、情報通信関係の仕事に関しては、かなりテレワークができていますけど、その代わりに物がたくさん動かないといけない。食べ物だとか、その他もろもろの物が動かないといけないということで、もしかすると人間が動くための自動運転というものよりは、物を宅配するための比較的安全性の高く、迅速性を伴わないような、物の宅配の自動運転といったところを街中で整備していただくということが一つ重要なのかなと思います。

次に、農業の話でございますが、いくつか重要な視点が書かれていますので、大変すばらしいかと思えます。この中にもう一つ加えていただきたいとするならば高付加価値農産物とか、あとは健康増進すると言われていたような成分を増産するような技術というのも一つ、今後健康増進社会とか健康寿命の延伸といったところ言えば、そういったことがあるのかなと思います。

すでにサプライチェーンの再構築ということは言及されているんですけども、さらに最近ではスマート農業の分野でも、生産のところから食卓に至るまで、スマートフードチェーンといったような、すべてを情報で繋いで安心安全の食べ物といったものを、情報でサポートしようじゃないかっていう考え方が一般的になりつつございますので、スマートフードチェーンといったキーワードも入れていただけたらいいのかなと思いました。

最後に、農林水産業の安心安全の確保といった点では、災害に強いというような重要なキーワードを追加されたということですので、災害に強いを受けて、非常事態時の食料の安定確保と、いったようなものも、組み込んでいただけたらいいかなと思います。

もう1個はちょっと私の専門から逸れてしまうんですけども、海外人材の獲得という話だったので、これはやはり、県内の人材と外国との交流といったものも、促進していくというところもあろうかと思えますので、例えば若い世代、学生同士とか市民同士での、日本国内の愛知県内と国外のオンライン交流の支援とか、オンライン留学とか文化交流といったものをサポートする仕組みがあってもいいのかなと思いました。以上です。

<内田座長>

ありがとうございました。

高山委員からは、柱⑥の「イノベーションが巻き起こす力強い産業づくり」、特に農業を中心にご指摘いただきましたけれども、まずステーションA iに関してはもう少し支援拠点の地域別、分野別の表記があってもいいのではないかということで、これに関しては、すでにいくつかの拠点が名大を含めて構想がありますので、そのあたり分野別に追記していただければと思

ます。

それからスタートアップに関して、すでにリタイアされたシニア層のスタートアップもいるかもしれませんが、若手研究者に特化したような表記でもいいのではないかというご指摘もありました。

また、次世代産業振興のところでは、自動運転の社会実装ということで、物流に関する表記をもう少し加えたらどうかということでした。これまさにその通りだと思いましたが、今回のコロナで、ネット通販による宅配が急増して最終的にはリアルで受け取らないといけない状況が増えています。そのラストワンマイルの配送拠点としてコンビニがネットワーク化するという動きもありますので、スマート物流に関する記述も特出ししてもいいぐらいかなと思いました。

あとは、12 ページで、スマート農業で高付加価値化という箇所がありますが、本県は農業生産額では全国7位ですが、付加価値率で見ると中位程度で、高付加価値化の記述はさらに具体的に書けるといいのかなと思います。キーワードとしてのスマートフードチェーンだったり、有事を想定した安全安心な食料確保の記述があってもいいのかなと思います。ありがとうございました。

ここまで委員の先生方からご意見を頂戴しましたが、オブザーバーとして、名商の田中さんと中経連の岩附さんにお越しいただいておりますので、お2人からも6分ずつ、ご意見やご提案などを頂戴したいと思います。まずは田中さんからお願いいたします。

<田中オブザーバー>

名古屋商工会議所の田中でございます。

まず、今回の柱⑤のところからでございますけれども、昨今の新型コロナの影響で、デジタル化というものは、間違いなく急速に進展をしていくだろうなど。中小企業も含めて社会全体が対応を迫られていくということになろうかと思うんですが、いろいろ国の施策も持続化給付金等々ございました。それがネットで申請というようなこともあったわけなんですけど、現場を見ると、かなりの混乱が生じていた、ということも、現実であるというふうに思っております。中小企業は、テレワークということで導入したいと思いつても、正直なところ何から手をつけたらいいのかよく分からないということもございますし、またいざ、テレワークを導入するということになると、セキュリティは大丈夫なのか、という不安を覚える企業が大変多いような気がするところがございます。そうした意味で、できる限り豊富な事例集であるとか、相談体制を構築していただくということは、大変重要なことだと思うんですが、それをどこまで最終的に手を差し伸べていくかということが非常に大切になるのかなと。汎用ができるところとできないところ、これが二極化されてしまうということが心配に思うところがございます。できる限りきめ細やかな対応を相当突っ込んでやらないと、なかなかこれに対応していくことが難しいのかなというふうに思っております。

それから柔軟な働き方というところがございます。これから10年20年先を見据えますと、兼業・副業、それからテレワークなどが非常に一般的になって、職住近接の生活というのは広がっていくのかなと思っております。一方で、足元の話としては、飲食だとか、観光サービスが大変な苦境に立たされているところがございます。今、いかにして雇用を守るか事

業継続するか、こういったところが大変大きな課題になっているところでございます。

その一方で、介護だとかそれから農業なんかもそうだと思うのですが、まだまだ人手不足ということがあるわけでございます。うまいこと飲食業に従事している方が、介護の分野に参入しやすくなるような、そういった支援策も、今の時代、必要ではないのかなというふうに思います。

それからワーク・ライフ・バランスのところでございます。1人複役社会というのでしょうか。こういったことが書かれていますが、子育て・介護、それと自分の体の治療だとか仕事、こういったものの両立が不可欠になってくると、そのためにはやはりデジタル社会の浸透ということが大変重要かと思えます。この素案の中にも、行政手続きのオンライン化というようなことも謳われているのですが、現実申し上げるならば、なかなか国や政府の対応が進んでない。このあたりはやっぱり、率先してお手本を示すようにしていただくような、こんなことが必要かなというふうに思っております。

それから柱⑥のところの「イノベーションを巻き起こす力強い産業づくり」ということで、20年後のこの当地は、モノづくりで日本経済を牽引していく地域であって欲しいと思っております。今この観光産業、これは後ろの方の柱⑨の中で、ほとんど触れられているところで、私どもの担当の中では、柱⑥に、日帰りグリーンツーリズムというような表現はあるのですが、あまり書かれてないと思えます。人口減少社会では、交流人口を増やしていくということが非常に大切でございます。地域、経済の活性化を図るために、交流人口を増やすことが、非常に大切だと思うところでございます。そういう意味で観光というのが、ある意味もう少し注目されていいのかなと思えます。

一方、デジタル社会で少し心配することは、これが浸透して参りますと、ビジネスの分野で、すべてそれが対応できるようになれば、人が動かなくなるというところで、人が動かなくて、消費もしなくなる、このようなことがちょっと心配かなというふうに思っております。

それからスタートアップのところでございます。非常に全国でこういったものが、活動が盛んになっているかと思うのですが、この地域の何か特色を出したらどうかと思えます。例えばですが、ITの分野だとか、医療機器だとか、重点を絞って戦略的にスタートアップ活動を続けたらどうかというふうに思っております。

それから最後、柱⑦のところでございます。グローバルネットワークづくりというようなところでございます。MICEだとか、アジア大会、いろんな大きなイベントがあるわけでございますけれども、情報がバラバラに発信されているようなところがあるかなと思えます。ぜひ「オール愛知」で強力に情報発信をしていくということが必要かなと思っております。以上でございます。

<内田座長>

ありがとうございました。

いくつかご指摘いただきましたけれども、まず1点目ですが、10ページ目の中小企業とのテレワーク導入に係る各種相談対応という箇所ですが、中小企業もネットワーク化やデジタル化の流れに乗せていくという点が当地域の産業競争力を維持できる大前提になりますので、その辺りに関してセキュリティも含めて少し強調していただきたいというご意見でした。

それからあと、確かにそうだなと思ったのですが、「選ばれる魅力的な地域づくり」の方に観

光分野の記述があるのですが、産業分野としての観光というのは、現在はコロナでほぼ停滞しているんですが、アフターコロナの時代には、ワーケーションのような方向性も含めた形での観光分野は、観光地としてのブランディングだけでなく、スタートアップの若い起業家などの誘引にも効果的だと思いますので、産業としての観光分野について記述はあった方がいいのかなと思いました。

それから3点目のICT、スタートアップに関しては、本県ならではの特色がもう少し見えるようにしてもいいのではないかとのご指摘をいただきました。スタートアップは質より量という点も大きい分野ではありますが、ある程度の方向性が見えるような形で特色を出せるといいのかなと思います。全般的には、デジタル化への対応という方向性を強調していくとよいのではないかとのご意見でした。ありがとうございました。

それでは、もうお一方のオブザーバー岩附さんお願いします。

<岩附オブザーバー>

それでは中経連の岩附から発言させていただきます。まずは、コロナ禍で大変な状況が続く中であるにもかかわらず、今回のビジョンは分かりやすく、いろんな課題を網羅されているという意味で、私は今の時点では非常に良い案を作っていただいたのではないかと思います。

本前提の下、重要政策の方向性の柱⑥「イノベーションを巻き起こす力強い産業づくり」を中心に何点か、発言をさせていただきます。

鬼頭先生からもご指摘ありましたが、今回の内閣府のスタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市に関しては、現段階でようやくスタートラインに立った段階であり、本来だと、エコシステムを形成するだとか、拠点都市を作っていくということ自体が大きな目標だと考えています。そうすると、このグレーの部分の書きぶりの中で、本来は、エコシステムを作って国際拠点都市を目指さなくてはならないということを中心に大きく記載してもいいのかなと思ったのが、1点目の意見です。

それから、11ページの右サイドのステーションA iに関する記載ですが、今はもうハード面だけでなく、本当にこのステーションA iを使って愛知県がどのような取組をしていただけるのか、何を満たしていただけるのかというような、ソフト面での取組に対して、本当に我々はすごく期待をしているところがあります。今の段階でなかなか難しいところだと思うのですが、ソフト面で具体的に何をやっていくのかということの記載が厚くなるとより良いのではないかと考えたのが2点目です。

3点目として、これも先ほどご意見もありましたし、内田先生からもお話があった航空宇宙産業に関する記載ですが、今はスペースジェットの問題だけではなくて、コロナ禍で、航空宇宙産業が厳しい状況だと聞いております。愛知県だけでなく、中部圏の産業クラスターとして、航空産業の基盤は大事なものであり、本産業が、コロナ禍をどのように乗り越えていくかという非常に大事な局面だと思っております。素案の中では、航空機生産機能の拡大・強化や、国際競争力の強化や販路拡大の加速という書き方がされていますが、これを少し改めて、航空宇宙産業を将来に向けてどのようにビジョンを立て直すとか、そういう大きな視点でとらえてもいいのかな

と思っています。そうしないと、このせっかくの航空宇宙産業の基盤が駄目になってしまう恐れもあると、そういうリスクを強く持った記載ぶりの方がいいのかなと思いました。

ページをめくっていただいて12ページの左側に「中小・小規模企業の持続的発展と生産性の向上」の中で、1つ目の括弧の一番下の方に、円滑な事業承継に関する記載があります。今、高齢化等いろいろある中で、この中部圏のモノづくり産業もサプライチェーンの維持に向けてこの事業承継に関する取組は非常に重要だと思っています。本来の取組というのは、例えば税制の恒久化であったりとか、事業承継計画の策定等に関するインセンティブの強化であったりとか、あとは愛知県とかいろいろな自治体がやっておられるような支援制度の知名度の向上、利活用の促進、それには行政区域を越えたマッチングとか、M&Aを促進する制度など、必要な取組は多様だと思っていますので、こちらについてももう少し記載を厚くしてもいいのではないかとも思います。

あと、今のコロナ禍で一番大事な取組の1つとして、東京一極集中の是正ということがあろうかと思っています。特に我々中部圏、愛知県にとって、首都圏の過度の集中の是正が必要という意識の広がりには大きなチャンスですので、ぜひ愛知県のリーダーシップのもと、名古屋市や近隣県との連携により具体化していただきたいと考えます。実際、首都機能をいくつかの地域に分散するだとか、企業機能の地域分散だとか、リモートワークの普及や地域で住み働く意向の高まりを意識した新たな雇用形態の普及促進だとか、2拠点居住の推進とか、いろいろと記載できる内容があろうかと思っています。骨子の方にはいくつか記載があるのですが、この素案の中に入っていくと紛れてしまっているような気がしてしまっていて、もう少しこの辺りの取組を意識した方がいいと思った次第です。

<内田座長>

ありがとうございました。

いくつかのご意見をいただきました。柱⑥を中心にご発言をいただきましたけれども、まずステーションA iに関して、もう少し県のやりたい方向性が明確に見えてもよいのではないかと、先ほどもご意見ありましたけれども、すでに確定しているような地域別、拠点別、分野別のような方向性であったり、愛知県として具体的にどういった分野でスタートアップを強化していくのかという現実的な部分が見えるように、少し記述を加えてもいいのかなと思います。

それから、航空宇宙産業に関しては、現在スペースジェットの事業規模が大幅に縮小されている一方で、世界的な航空需要に関して、ウィズコロナで人の移動制限がある中では一時的に需要が減退するリスクもあります。コロナによってスマート化や自動化・省力化が加速する流れは間違いないので、ロボット産業の方がより確実性が高いというか、重要性は増していると個人的には思います。

それから最後に、東京一極集中に関してもお話をいただきました。まさに今回のコロナで、場所も時間も関係ないという働き方改革も含めて、地方への移住・定住の流れで、地方が躍進できるチャンスでもあると思います。その辺りもこの柱の⑤⑥⑦あたりで、東京一極集中の是正に向けた動きとして明確に表現できるといいのではないかなと思います。ありがとうございました。

オブザーバーのお二人も含めて、まず1巡いたしましたけれども、何かこの1巡目に関して追加・補足のご意見、ある委員の方はいらっしゃいますでしょうか。

全体的に1巡目では、コロナに対応するために、特にスマート化への対応というものが喫緊の課題であること、その中で愛知県の独自性をもう少し強調できるような具体的な項目立てにできないかというご意見が多かったかと思います。

事務局としても拡充できるような箇所や、もう少し具体的に書けるような箇所があれば修正をお願いしたいと思います。ありがとうございます。

議題 次期あいちビジョンに係る進捗管理指標（案）について

<内田座長>

それでは、2巡目といたしまして、資料3「次期あいちビジョンに係る進捗管理指標の案について」ということですが、まず、進捗管理をできる指標が公的指標を中心にピックアップしていただいているが、なかなか民間のデータや資料が使いにくい中での指標となっています。この資料3についても、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。2巡目は、5分くらいは時間があるかと思いますが、田中委員からお願いしたいと思います。

<田中委員>

まず本資料ですけれども、KPIといいますか、数字で進捗管理する意図はよく分かりますが、この数字をどう使おうとされているのかが、まず分かりにくいというのが率直な意見です。より具体的には、それぞれについて目標となる数字を設定する予定があるのかどうかです。現状こうですよ、これが昨年から増えていますよというところで終わるのか、今回の場合は2030～2040年という長期プランですけれども、今後、このビジョンを中期的な政策に落とし込んでいくときに、例えば2025年にはこういう数字を目標としましょう、そのためにこのようなより具体的な政策を進めましょう、という使い方をするのか。ちょっと数字の目的や位置付けが分からないというところが一番です。

例えば、具体的に言いますと、本分科会の所管ではないですが、先ほども少し言及したBCPについて、1ページ目の3番目に、県内の中小企業の2019年度のBCPの策定実績が9.7%となっています。本県は南海トラフなど自然災害のリスクが高いと言われていますが、これは本年度の中小企業白書を見ると全国平均よりも低い数字になっています。数字を使用する場合、単に進捗管理に使うだけでなく、せめてこの数字を全国平均並みまでもっていきましょとか、そのような政策目標として数字を使うことはできると思います。ただ、すべての施策について目標を数字で表すことは難しいと思いますし、また、コロナによって短期的な経済変動の影響も大きいので、全部について目標を立てるとするのは困難かと思いますが、特に産業や経済分野に関して言いますと、そういう目標値を掲げる方が、企業や社会への訴求力は高まると思います。

その上で、指標となる項目としてはほぼこのあたりかなと思うのですが、ちょっと気になった点で言いますと、6番の柱で5つほど指標が挙げられていますが、例えば「製造品出荷額」、「研究開発費」、「輸出額」については、全国シェアで数字を取っています。一方、28番の「農業産出額」は実数値を取っており、一貫していないと思います。さらに本ビジョンと分科会では、

県内の企業が今後、グローバルに戦っていこう、そのための競争力を上げていこうという中で、国内シェアで進捗を管理することが本当にいいのかどうか。これから少子高齢化などで国内市場の収縮が予想されていますが、本当に国内で生き残るということを指標として利用してよいか、少し疑問に思います。

もちろん、コロナによって経済が急減速しており、当然ながら県内の製造品出荷額も落ちると思いますし、そういった部分が生の数字を利用する課題ではありますが、ちょっと煩雑になるかもしれませんが、実数値とシェアを併記することも一案に思います。

それ以外に追加するとすれば、研究開発費の代わりに、特許件数なども良いかと思いましたが、あまり、それぞれの柱ごとにK P Iの数が変わるのも問題と思いますので、大枠として国内シェアと数字の使い方、それから目標設定のあり方につきまして、もう一度検討いただければと思います。以上です。

<内田座長>

ありがとうございました。

まず1点目として資料3の進捗管理指標のそもそもの位置付けということで、これに関しては、事務局として何か回答がございませうか。

<事務局>

お問い合わせの件についてご説明させていただきます。指標につきましてですが、これは今後10年間、各重要政策の方向性に沿って政策が適切に進捗しているかどうかを測るためのものとしてございまして、田中委員が先ほどおっしゃられました、進捗状況を毎年把握していくためのものとして考えております。この中で重要な指標については目標値を設定していくということも考えており、今後検討していきたいと思っております。

それから指標に、シェアと実数値が混じっているのではないかというお話がありました。現行の「あいちビジョン2020」がシェアを基調として数値目標を設定しておりますので、それを踏襲しております。また、現在コロナの関係で大きく社会経済状況が落ち込んでおります。実数値で現在の数値をスタートラインとしますと、これから社会経済状況が好転するにつれ、数値が極端に増加する可能性があり、適切な状況把握ができるのかという疑問がございませう。なお、海外と比較できるものはないか、海外シェアで見た方がよいのではないか、というご意見もあるかと思いますが、県単位でのデータで比較可能なものが見つからないということでございまして、採用に至っておりませう。何か良いアイデアがあればということで本日ご意見いただければと思います。以上でございませう。

<内田座長>

ありがとうございました。

先ほどの田中委員からのご指摘ですが、事前打ち合わせで私も指摘した事項なのですが、次期あいちビジョンの実現に向けたK P I指標という位置付けですが、なかなかピッタリマッチングする指標があまりない中で目標になってございまして、何か具体的にもこういう指標に

した方がいいのではないかと、こういうデータがあるというご提案があれば、各先生方からもご提案を頂戴したいと思っております。

例えば、先ほどの素案のたたき台でもテレワークの導入率などは、中小企業も含めて重要になってきますので、民間の指標であっても関連指標が今後出てくる可能性もありますので、適宜、精査していく必要があるのかなと思います。田中委員のご発言では、全国シェアではなく世界シェアで見たほうがいいものもあるということかもしれませんので、適切な指標管理は検討いただければと思います。田中委員、事務局の回答を受けて何かございますでしょうか。

<田中委員>

世界シェアで見るとというのは現実には正確な数字を取ることが難しいと思いますので、例えば、製造品出荷額についてはより長期的スパンで、基準となる年や期間からプラス何兆円などの目標であれば、比較的、コロナの影響を受けにくいのではないかとと思います。例えば、名古屋港からの自動車部品の輸出額は、今年の上半期はおおよそ昨年同期比で3割以上減少していますが、それでも2001年の通年とほぼ同じぐらいの金額なんです。これだけ落ちているのに、20年前の1年間の輸出額と、ほぼ同じぐらい、この20年で愛知からの自動車部品の輸出は増えているわけです。よって、長期的なビジョンを考えるのであれば、長期的な経済の動向を見つつ、短期的なシェアだけにとらわれるのではなく、長期的な視点で目標や進捗管理を行うことが重要だと思います。もちろん、資料の制約もありますので、指標についてはまたこちらの方でも気にかけておきたいと思っておりますけれども、ご説明ありがとうございました。

<内田座長>

ありがとうございました。

それでは続きまして、進捗管理指標案について澤谷委員をお願いします。

<澤谷委員>

こちらの資料も、先ほどのコメントと同様になってくるわけなのですが、めざすべき愛知の姿というビジョンがあって、それに対して施策があるわけです。実際のビジョンが満たす目的、目標、こんなことがしたいという数値に対して、施策一つ一つが、どういうふうに貢献するかということになります。今の指標ですと、とりあえず施策に対して何か関係しそうな指標をみんな持ってきてしまおうということで、持ってこられているような感じがします。今後、いろんな状況が変化して、やろうと思っていた施策が、意味がなくなるということもあると思います。そういったことを考えますと、ビジョンに紐づけて、施策があり、それに対して進捗の指標があるといった形に、まずは構造化をすることが重要だと思います。

あと、指標は、結果何人来たとか、何社登録したという結果を見るだけではなく、兆しを見るようなことをしていくといいと思います。実際には、指標が満たされなかったり、あるいは施策が変更される、戦略がどのぐらいアップデートされたかということも、すごく重要な評価になってくると思います。戦略が変化したり、あるいは施策が変わる、実際はこれをやめて違う策をとることになるといった、戦略のアップデートといったことは、評価としては良い評価として見て

いくことが重要だと思います。なので、実際には戦略を作った後、これをやることを目的にならないように、そのためにめざすべき愛知の姿、ビジョンを明確に、どんな形でいきたいのか、それに対する施策といった形で位置付けることが重要だと思います。

あと、ステーションA iに関連するのかわからないですけど、INSEAD を招致して、スタートアップ教育に今関わっているのですが、その時によく出てくるのが、愛知にいる人だけを参加させるのか、あるいは全国的な参加にするのか、あるいはもっと大きく国際的にするのかといったことです。非常に出てきます。スタートアップとか、新しい価値提供といったことを考えたときに、オール愛知とか、そういったことでは不十分だと思うのです。そういったことではなくて、必要な人たちが、愛知に来たり、あるいは愛知の人たちと組んでやるといった、オープンイノベーション型が重要になってくると思います。

そういったことが考えますと、先ほどから述べている、めざすべき愛知の姿に対して実際に施策をどういった形で実施していくのか。それは、オープンイノベーションだとか、愛知にこだわらずに、いろんなリソースを組み込む形でやっていくとよいと思います。

最後の点は、県民をもう少しインボルブするということです。この戦略を作って終わりということではなくて、戦略が県の人たちによく理解されてくることも重要でしょうし、そういった意味では指標としては、どのぐらいこの戦略について皆さんが知っているか、あるいは興味を持っているか、あるいは戦略に貢献しようとしているか、そういったことが重要だと思います。そのためにWebサイト、そのメディア戦略が重要だと思います。今、Webサイトを見たところ、ステーションA iの情報だとかいろんなものがバラバラで、あるいはPDFじゃないと情報が出てこないような形になっています。こういったWebの作り方、メディアの出し方もすごく戦略的に指標でちゃんとそれこそ見ていただきたいと思います。

そういったことを考えますと、これからめざす施策として、県民を取り込むガバメントとしてはプラットフォーム型になっていくということが重要なのではないかと思います。これから戦略を実施するために、企業や、住んでいる方たちを呼び込んでいくような、どのように政府がそのプラットフォーム型になるのか、先進事例で言いますとUK（イギリス）の例とかありますけど、そういったeガバメントの形になっていくのか、そのための指標も考慮してもいいかもしれません。以上です。

<内田座長>

ありがとうございました。

全体的に施策との連動性が高められればというご意見でしたが、方向性やビジョンの素案にある程度連動するような指標としてピックアップいただいているのですが、なかなかうまくマッチングが難しいという問題があるようです。ただ、実際の施策の実効性に伴うような数字が取れているのか、または何か兆しがあって戦略の変更が迫られる場合に、臨機応変に柔軟に取れるような指標管理をしていただきたいというご意見でした。

県民への戦略の周知などに関しても何か数字で取れると良いということだったのですが、テレワークの導入率は取れそうな気がするのですが、それ以外でもビジョンの進捗を把握するために、場合によっては、県が独自にWebアンケートを実施するとか、ネットワーク社会やスマ

ート化に対応した県民アンケートによる指標も将来的には検討していただければと思います。ありがとうございました。それでは続きまして、鬼頭委員お願いします。

<鬼頭委員>

指標の意義については、これまで、お2人からご意見がありました通りかと思います。指標というのは企業でもそうですが、数字だけが一人歩きしがちですので、やはり決める際には、一層の注意が必要かと思っております。

私からは具体的な指標についても意見を述べさせていただきたいのが、24番です。「スタートアップの本格的市場参入数」ですが、この項目についてはこの2015年以降の数字が記入されておりませんので、おそらく具体的な算出方法についてこれから検討されるという理解でコメントさせていただきます。本格的市場参入の定義をどのように設定するかというのは重要かと思っておりますので、できるだけ他県や、先ほどからもありますように、世界のエコシステム拠点と比較がしやすいような定義としていただければと思います。

先ほども触れましたが、すぐに世界と競争する立場はなかなか難しいとは思うのですが、やはりグローバル拠点都市として認定されていますので、世界と比較できるような数字というのをきちんと指標にしていくことが重要かと思っております。例えば、資金調達額や一定売り上げ規模のスタートアップ創出数といった数字であれば、そういった比較もしやすいのではないかと考えております。また今後、グローバル拠点都市としての目標管理も行われるかと思っておりますので、できるだけそういった目標との整合を取っていただければよいのではないかと考えております。短いです以上です。

<内田座長>

ありがとうございました。

スタートアップの本格的市場参入数については具体的に指標をご指摘いただきましたが、私も事前調整で資金調達額の方がいいのではないかという話はさせていただいたのですが、それに関しては、事務局からは、愛知県の数字が取れないということでした。スタートアップの関連する資金調達額の方が実効性という観点では私も鬼頭委員同様に望ましいかなと思うのですが、鬼頭委員、こういう都道府県単位の資金調達額で何か統計はないのでしょうか。

<鬼頭委員>

一応私の方もいろいろ資料を調べてみますと、毎年出てくる資料で、ジャパンスターアップファイナンスという資料が出回ってしまっていて、そこを見ると、愛知県とか東京都で資金調達額が、いくらかというのが棒グラフでも出ていますので、おそらくそういった数字というのは可能ではないかと考えております。

<内田座長>

ありがとうございました。

鬼頭委員のご指摘いただいた統計が使える感じですので、特に愛知県の場合は、自動車関連のスタートアップなどは参入数より資金調達額の方が重要ですし、将来的な成長性を評価できると思いますので、鬼頭委員にご提案いただいた統計も含めご検討いただければと思います。ありがとうございました。それでは続きまして、風神委員お願いします。

<風神委員>

風神です。

資料に沿って発言したいと思います。最初に資料2で出ていた柱⑤の3つのキーというのが、「新技術を活用した効率的な働き方の促進」、「多様で柔軟な働き方の促進」、3つ目が「ワーク・ライフ・バランスの更なる普及拡大」であったわけですが、この資料3の21、22、25番というものを拝見しますと、指標が取れる、取れないということはかなり関わってくるのかもしれませんが、ワーク・ライフ・バランスに比重を置いた指標になっているのかなと感じました。やはり3つキーがあるので、他のものに対しても進捗管理が必要かなと思います。かつ、あいちワーク・ライフ・バランス推進運動賛同事業所数、つまり賛同しているかどうかの事業所数というのは、目標達成しやすそうですが、実態の改善ということから見ると、やや乖離があるのかなと感じまして、もう少し直接的な数値でも良いのではないかなと思います。また21、22番はかなり系統が近いので、それもどちらかを減らして、もう一つ、直接的な数字を入れて、例えば、女性や障害者であったり、テレワーカーや裁量労働制など、柔軟な働き方を取っている事業所数の割合ですとか、あるいは先ほどの資料2にあった、仕事場と家との通勤時間ですとか、あるいは副業や兼業の働き方を希望している人に対して実現率がどのくらいなのかといった具体的な数字でもいいのかと思いました。「ICTを活用した行政手続等のオンライン化」というものも、資料2の方であったと思いますけれども、管理しやすそうなので、数値としては取りやすそうなので、見てみてもいいのかなと思いました。

次に、柱⑥に関してですが、「スタートアップの本格的市場参入数」については私もその本格的というものを、何で取るのか非常に気になったところですので、ぜひ他の指標や数値と比較できる形で定義していただきたいと思います。

また資料2の方で上がっていた、やはり「中小企業の発展と生産性の向上」、また「産業人材の育成確保」というのは非常に重要なテーマだと思うのですが、それに対して進捗管理の指標がないので、中小企業のデジタル化実現率ですとか、あるいは支援した数ですとか、あるいはその人材育成であるならば純粋に人数の管理などもできるのかなと思いました。

柱⑦に関しても、やはりこれも統計が取れるか取れないかがもちろん関係すると思いますが、重要なものとしてあげたものが、管理の方で出てこない、その項目というのは、重要ではないのかと捉えられてしまう恐れもあるので、入れたほうがいいのかと感じまして、柱⑦に関しても、例えば海外進出企業への総合的な支援とか、海外販路の開拓ということを謳っているのですが、それが間接的に輸出額の国内シェアの割合であったりとか、企業誘致数になっていて、これはあえてそうしたものかもしれませんが、実態を捉えるならば、もう少し直接的に海外進出した企業数ですとか、海外の販路開拓数とかでもいいのではないかなと思いました。以上です。

<内田座長>

ありがとうございました。

今ご指摘いただいた多様で柔軟な働き方の促進ですが、ワーク・ライフ・バランスにウエイトが置かれている。もしくはそういうふうにつまえられる懸念があるというご指摘でした。この辺りは事前打ち合わせで私も指摘したのですが、特に21番のワーク・ライフ・バランス推進運動の事業所数が必ずしもワーク・ライフ・バランスの改善につながっているかどうかというのは分かりませんし、統計の取りやすさや県実施の統計という点ではありますが、今のご指摘を受けて入れ替えや、ビジョンの素案に連動した数字をなるべく取るよう検討いただきたいと思います。

中小企業のデジタル化に関しても数字が取れそうですし、ICTを活用した行政手続きのオンライン化に関しても、県が取りやすいような気もします。実際の数値としてもかなり進みそうだというご指摘も頂戴しましたので、この辺りの指標の入れ替えも検討いただければと思います。ありがとうございました。それでは続きまして、高山委員お願いします。

<高山委員>

高山です。

私のところでは、柱⑥に関するものをいくつか追加していただけないでしょうかというのと、あと評価指標についてでございますが、26番の中に、ここでアグリテックというような言葉も、アグリテクノロジーの略でございますが、そういったものも入れていただいてもいいかなと。世界的には産業、そして成長を見込まれる分野となっておりますので、それが一つと。

あとは、農産物の産出額に関してなんですけど、やはり先ほど他の委員からご指摘ありました通り、消費が減っていく中で、輸出が圧倒的に伸びない限りは産出額が大きくなるってことはなかなか難しいということになるかと思いますので、例えばスマート農業といった意味で、生産性が高まったのであれば、農家一戸当たりの収入とか、そういった生産力が高くなったら、結果として、豊かな農業というか、そういったものができているという指標にするのも良いのかなと思いました。

あとはスマート農業、技術といったものを幾つか定義されたものが、農水省で出ておりますので、スマート農業関連の技術の導入率とか、導入数だとか、あとはGAP等々の導入数というようなものも、指標としては挙げてもいいのかなと、整合するのかなと思っております。以上です。

<内田座長>

ありがとうございました。

農業産出額のところで、具体的にスマート農業に関連する指標として、農家一戸当たりの所得も考えてはどうかというご指摘をいただきました。また、GAPの導入数についても入れたほうがいいのではないかとのご指摘でした。その話の中で、農業産出額は輸出が伸びない限りは基本的には国内消費額に限界がある影響が大きいですが、農業関連の輸出額という視点で、一次産品だけでなく、農産物の加工品の食品加工業まで含めて見てもよいのかなと思いました。ありがとうございました。

オブザーバーのお二人にもご意見をいただきたいのですが。回線の状況が悪いようですが、先

に、中経連の岩附さんからお願いできますか。

<岩附オブザーバー>

中経連の岩附から先にご報告をさせていただきます。

先生方のご指摘のとおりかと思えます。なかなか数値化が難しくても、なるべく目標、活動に沿ったものがあると良いということだと思います。

その中で、鬼頭先生からもご指摘ありましたが、コンソーシアムに関して言うと、スタートアップ・エコシステムについては、例えば人材を、1万人を5年で出すとか、海外スタートアップ企業と当地域企業のマッチングを何とか5年で400件やるとか、競争によって新しい事業コンセプトを5年で1,000件立てるとか、あと資金、人材も1,000億円を5年間で投下する等を、コンソーシアムは目標として明記しています。ただ、これをどうやって数字を取るかというのは、これからコンソーシアムの中で相談していかなければならないですが、例えばテレワークを始め、これから新しくやっていくことですから、これに適した指標を作る、管理するという自体、今回のビジョンの取組なのかなと思っています。

通常ありえないとも思いますが、今後こういう活動を明確化していくために、こういう指標を数値として管理するための取組を進めていくのだとか、そのような書き方がもし今回のビジョンの段階でできるのであれば、それも一つの活動目標として、いろんなメッセージにもなるのではないかなと思った次第です。繰り返しになりますが、コンソーシアムであれば既に目標を立てているので、何とかしてこの数字を拾い上げなくてはならず、愛知県様の力を借りながらやっていかなければならないということだと思いますので、そうした意味で、他の目標も、これから指標を作ることも含め、目標化してはどうかと思う次第です。以上です。

<内田座長>

ありがとうございました。

スタートアップ・エコシステムに関して、コンソーシアムに関連した件数であったり、人材輩出の数であったり、具体的な数字に変えた方がいいのではないかというご指摘がありました。ありがとうございました。それでは、回線が復旧したようですので、名商の田中さんお願いします。

<田中オブザーバー>

まずワーク・ライフ・バランスの件です。指標の関係でございます。

同じようなご意見もあったかと思えますけれども、今現在、指標では賛同した企業数を挙げており、ファミリーフレンドリー企業というのも同じように新規登録企業数というところで進捗指標となっているところでございます。この事業数をどう捉えるかということですが、単に企業数だけでなく、愛知県下の事業所に占める割合がどう増えているかということも必要ではないかと感じた次第です。そして他県でも同様の調査をされているのであれば、他県と比較してもよいのかと感じた次第です。

それから、あと一点でござりますが、柱⑥の研究開発費のところでございます。愛知県の研究開発費は、多分全国で2番目なのかなと思うのですが、間違っていたら申し訳ございません。1

番が東京都で2番が愛知県かなというふうには私は理解をしているのですが、やはり愛知県の場合、トヨタの存在が非常に大きいと思います。ここ何年間か、トヨタというのは、毎年1兆円以上、研究開発費を投じられているわけでごさいます、自動運転であったり、デザインというのもありますし、環境対策とかいろんな分野に、この研究開発費が投じられていると思います。もちろんトヨタ本社で行われている研究開発もあると思うのですが、例えば現実問題として人工知能なんかの研究開発は東京でやってみえるかと思ひますし、車の基本性能、こういった関係は、静岡県の東富士でされていたり、あるいは寒冷地対策ということであれば、北海道でされています。デザインなんかも、豊田もあれば、フランスにもデザインセンターが、こういうことで非常に広いエリアに、この研究開発費というのは使われていて、お金がバラバラに使われているというふうにするわけなのですが、そうしたことを踏まえますとやはり、トヨタの研究開発のウェイトが余りにも大きいものですから、それだけをもって、進捗管理をしていくと、トヨタの数字そのものが、上下しただけでもかなり大きな変動になってしまいますので、その辺りはどうなのかなと思ひた次第でごさいます。ある意味内々の事務局内部の数字としてはトヨタの数字を除いた部分で、どれぐらいの研究開発がされているのかというようなことも、少し内部資料としては確認をするようなこともあってもいいのかなと思ひます。以上でごさいます。

<内田座長>

ありがとうございます。

先ほど風神委員からもご指摘いただいたワーク・ライフ・バランスに関連する指標については確かにちょっとバランスとしても少し悪いのかなという感じはしますし、実際の中小企業も含めた、テレワークであったり柔軟な働き方、女性であったり、シニア層だったり、そういったものに少し変えられないか検討いただければと思ひます。

それから、研究開発費に関しては、トヨタグループ除きという指標は大きく数字が低下して少し怖いような気もしますけれども、研究開発費の分野を絞ったりしながら、次世代製造業の特定強化分野、例えば、自動運転やMa a S、CASE、航空宇宙やロボットなど、少し分野を絞って研究開発費を見ても効果的なのかなという気がしました。

また、他の都道府県で採用している進捗管理指標を参考にできるのではないかとご指摘は、私も同様の意見を伝えてありますが、特に東京都や国あたりを参考に適用できる指標があれば検討していただきたいと思ひます。ありがとうございます。

1巡、2巡と回りましたがけれども、1巡目のビジョンの素案や2巡目の指標について、追加で補足発言がある委員の先生がいらっしゃいましたらご自由にご発言いただきたいと思ひます。どなたかいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

本日、委員の先生方やオブザーバーの先生方からいただいたご意見は、どれもご尤もな内容でしたが、指標などは限界がある中で、いかにビジョンづくりに連動するようなものをピックアップできるかも検討いただきたいと思ひます。新型コロナに関して、2040年を見据えて2030年までということですので、現時点で細かく記述する必要はないのかもしれませんが、コロナをきっかけに加速するスマート社会への対応という視点で、特に愛知県が独自に対応し強化する分

野の方向性を提示することができるかと思えます。

それぞれの専門分野の委員の先生方から、具体的な提案などをいただいておりますので、他の分野別の方向性と重複するような部分もあるかと思えますけれども、適切に仕分けをしながら、拡充できるような箇所を追加修正していただければと思います。

それでは、ちょうど予定の時間が参りましたので、進行を事務局にお返しします。

<野村政策企画局長>

本日は長時間にわたりまして、これまで2回の分科会含めて、熱心にご議論賜りましたこと、誠にありがとうございます。今回初めてのWeb会議ということであり、不慣れな点がありましたことについては、お詫びを申し上げます。

本日、先生方から大変貴重なご意見、ご提案をいただいたと思っております。このあいちビジョンについては、これから文章化をしていって、素案をまとめあげ、そして、9月には、有識者懇談会の方で、実際にご意見を伺っていきたいと思っております。本日、委員の先生方からいただいた、たくさん貴重なご意見、またご提案について、できる限りこの文章化する過程の中で、このビジョンの中に取り込んでいきたいと思っております。

また指標についても、様々具体的なご提案も含めて、たくさん先生方からご意見を賜ったと考えております。こちらについては、我々も、どういう指標がいいのかということ議論しながら、今回のビジョンのテーマに合うように探しているという、手探りの状態でやっているところがございます。なかなかテーマに一致した指標を見つけることは非常に難しいというところではあります。本日、たくさんのご意見をいただきましたので、どういったものがうまく使えるかということ考えながら、今の指標をうまく拡充したり、追加したりすることができるかどうか、事務局の方でしっかり検討して参りたいと思っております。

今後は9月中旬に、開催を予定しております有識者懇談会で、素案のご意見をいただき、そして11月にはあいちビジョンを策定して参りたいと考えております。この分科会の開催につきましては、本日をもって終了となりますが、これからもこのビジョンの策定過程につきましては、節目節目で委員の先生方へ、ご報告申し上げたいと思っております。ご意見、また新たなご提案など、もしございましたら、ぜひ我々の方へ遠慮なく、いただければありがたいと思っております。

これまで申し上げましたこのあいちビジョンは、これからの愛知の10年、20年を形作って、どういう方向性でこの愛知県を進んでいくかということを決める、最も基本となる、重要な計画でございます。この計画を策定するにあたって、分科会の先生方から、本当にたくさんのご貴重なご意見、そして専門を生かしたご知見を賜ったということに対して、本当にありがたく感じております。先生方のご大変なご尽力に関しまして、改めて御礼を申し上げます、閉会のご挨拶させていただきます。本当にありがとうございます。

以上